

5G通信

Vol.45

加速する半導体業界のM&A

いま話題の次世代通信「5G」に関する
とっておきの情報をご紹介します

**2020年下半期、半導体業界では大型M&Aのラッシュで再編が加速しています
半導体の覇権を巡り、技術開発競争は激化する見込みです**

2020年の半導体企業のM&A総額は史上最高に

- 2020年下半期、米国を中心に半導体業界では大型M&A(合併・買収)が相次いでいます。10月末時点での2020年の半導体企業のM&A総額は12兆円(合意ベース)を超え、過去最大となりました。株高と緩和的な金融政策の後押しもあり、企業再編の動きが加速している模様です。
- こうした背景には、携帯端末や基地局など5G関連向けやコロナ禍による外出自粛でデータセンター向けの半導体需要が大幅に拡大していることに加え、半導体の利用が幅広い分野に広がっていることで、技術開発が複雑化していることもあります。

半導体の覇権を巡り事業モデルも変化

- これらM&Aは技術開発などで相乗効果を生むだけでなく、長引く米中貿易摩擦に対する経営リスクの軽減も期待できます。
- 例えば、CPUやGPUに強みを持つアドバンスト・マイクロ・デバイス(AMD)は、「FPGA」半導体の世界最大手であるザイリンクスを買収し、先端半導体技術を取り込みます。回路の構成を変更できるFPGAは、AI(人工知能)などの膨大な計算に適しており、長期で成長が見込める通信やデータセンター分野の事業基盤の強化を図ることが可能になります。
- 今後も半導体はデジタル社会における成長産業の中核エンジンとして、長期的な成長が期待できます。ITシステムが複雑化する中、回路微細化など競争力のある商品・サービスを提供するために開発投資はより活発化すると思われます。そのため半導体業界では、M&Aで規模を拡大し、開発投資を効率化していく流れが今後も継続すると考えられます。

2020年下半期 半導体業界の主なM&A



※2020年10月末現在。社名は一部省略しています。
(出所)各種情報を基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

世界の半導体市場規模および半導体関連株式



※世界半導体関連株式は、MSCIオールカントリー・ワールド半導体・半導体製造装置インデックス(米ドルベース)、グラフの起点を100として指数化
※世界の半導体市場は1999年～2021年(年次)、2020年以降は世界半導体市場統計(WSTS)による予測
(出所)JEITA、Bloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成



【 ご留意事項 】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。